

**特集：おらほの農地集積**

**米山町城内地区の取り組み**

将来とも農業農村としてのゆとり空間を重視した地域づくり

位置図



**1 はじめに**

今、農業農村を取りまく情勢は、国際化への対応という試練の中で、米山町もご多分にもれず今後の農業農村の整備を図るため、土地利用型の生産性向上と農地の有効活用や担い手育成、さらには、生活環境の整備を主眼に様々な農業振興施策が実施されてきました。

この城内地区は、昭和49年度に大規模圃場整備事業により30a区画に整備されている。県内でも先進的な農業地域で、稲作プラス転作（麦、大豆）、畜産、野菜の複合経営を展開してきています。

**2 事業計画の経緯**

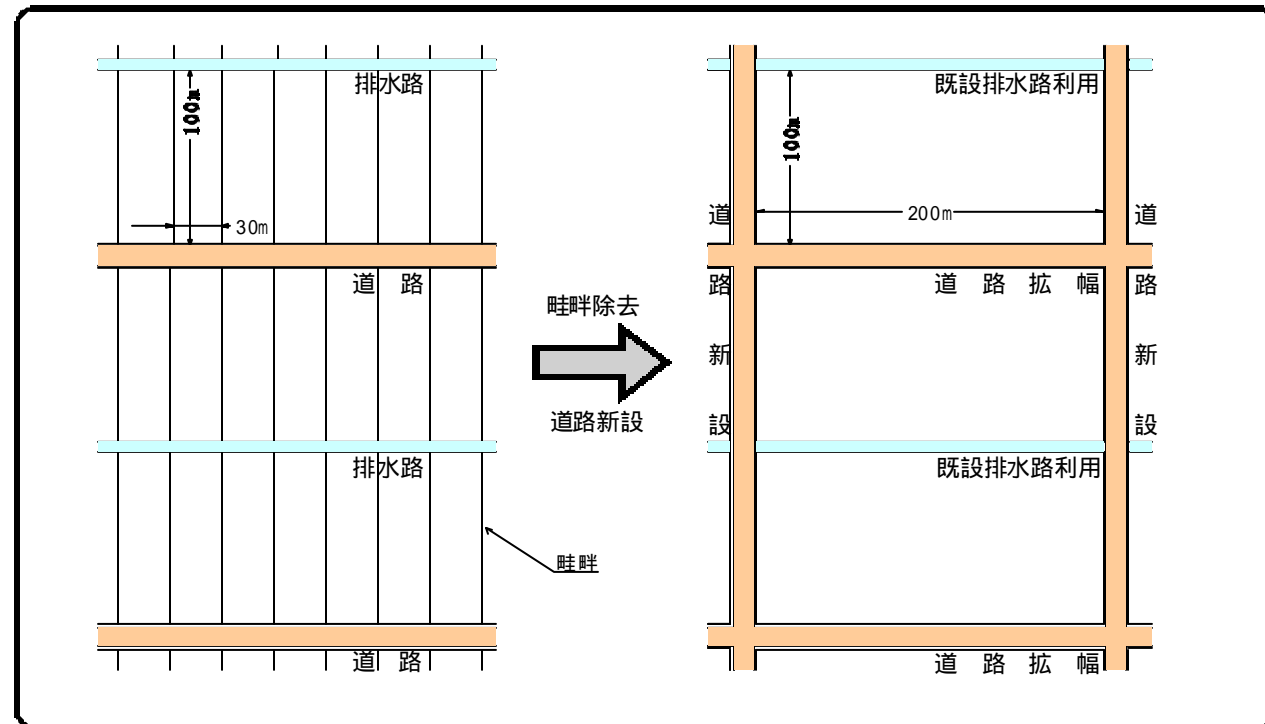
**現状の課題**  
 農業従事者の高齢化  
 担い手農家の減少  
 農地の分散による作業効率の低下

この地区は、昭和49年度に30a区画に整備済みでしたが20年以上経過しているため、様々な課題が出てきました。

**対策**  
 担い手等の育成・確保  
 新たな高生産性につながる区画整備  
 大区画ほ場に併せた農地集積

既存の生産組織や担い手農家の育成を図るとともに、作業の受委託を促進し、経営規模拡大を図り低コスト化農業を目指します。

**現況区画を基本に  
2ha区画でのほ場整備**



**3 圃場整備事業計画**

整地工	: 74.0 ha	大区画	1ha (200 m × 100 m)	47.5 ha
			1ha (200 m × 50 m)	16.5 ha
		端数区画	0.3~1ha	9.9 ha
道路工	: 幅員5m			
用水路工	: 自然圧送型パイプライン			
排水路工	: 既設排水路を利用			
暗渠排水工	: A = 74.0 ha			
客土工	: A = 74.0 ha			
創設換地	: 花卉園芸施設用地	A = 18,850m <sup>2</sup>		

**4 担い手農地集積事業(ソフト)の状況**

**担い手等の育成**

既存4生産組織を核として基幹3作業受委託により農地集積を図り、また近い将来における超省力化高生産性技術確立のため、宮城県農業センターの指導により水稲直播プロジェクトチームによる湛水多粒点播栽培の試験を実施しており、新技術導入に向け研究が進められています。

**農地集積推進活動の状況**

平成7年みやぎ未来型農業農村創設事業が導入され、本地区の再整備はこの時点ですでに位置づけられ、担い手等の育成、農地の流動化（ほ場整備地区内と地区外の交換分合）等積極的に活動してきました。意向調査結果に基づき、換地委員が中心となりここ数年先の営農状況の意向について対面調査を実施してきました。この結果農作業受委託及び規模縮小希望者等を把握し調整をしてきました。換地計画原案作成作業（換地選定）の中で換地委員と生産組織が連携のもと、集落分科会を開催し農地集積等の合意形成を図ってきました。宮城県農業公社の支援による、農作業受委託斡旋事業の説明会と契約を実施しています。

**農地流動化の状況**

	計画策定時	H.11まで	計画 (5年後)	計画 (10年後)
担い手等の所有面積	16.1 ha	16.1 ha	16.1 ha	16.1 ha
担い手等の利用権等面積	2.8 ha	21.5 ha	18.9 ha	34.9 ha
集積率	24.8 %	49.3 %	45.9 %	66.9 %

面工事は、平成11年度から2ヶ年で計画されており、実質2ha区画圃場における営農が展開されるのは、平成12年度からとなります。今後も農地集積の目標クリアに向けて積極的に活動して行きます。

**ゆとり空間の整備**



チューリップまつり



オーストリッチ(ダチョウ)牧場

- 問い合わせ先 -

迫農林振興事務所 農業農村整備部 迫地域農地集積指導チーム TEL 0220-22-6111 内線 474  
 迫川沿岸土地改良区 TEL 0220-58-2024